松本市における中心市街地循環バスの再構築に関する研究

平成 28 年 2 月　丸山　彩香

要旨

目的

1990 年代後半頃，全国各地で中心市街地循環バスの運行が開始された．長野県松本市においても平成 11 年に中心市街地循環バスが導入されて以来, 一般市民や観光客らにまちなかを周遊するバスとして愛されている．しかしながら，ここ数年来，バス利用者の減少が見られるようになってきており，路線の存在意義が問われるようになってきた．そこで本研究では，このバス路線を見直し，新たな需要に応じた周遊バスの提案を行う．

方法

まず，周遊バスの利用実態を明らかにするために，乗客を対象にヒアリング調査を行った．この結果から観光周遊に適したバス路線として再編の必要性を示した後，観光客が多く訪れる松本城公園において来訪者を対象としたヒアリングによるアクティビティダイアリー形式の観光行動調査を行った．その調査結果を分析し，観光周遊バスとして再構築するための最適な運行路線やサービスについて検討する．

結論

バス利用者に対して行った調査結果より，現在の周遊バス利用者の約 8 割が観光客であることが確認された．これにより，全国各地で市内観光用の周遊バスの運行増加が見られるなか，このバスを観光に特化した周遊バスとして再定義する必要が考えられた．また，観光行動調査の結果，松本市来訪時の交通手段として自家用車の利用が約 7 割であるが，市街地では多くの観光客が徒歩で回遊していることがわかった．さらに，計画性を持たずに観光する傾向があることも明らかとなった．これらの分析をもとに，観光に適したバス路線やバス内における観光案内サービスを形成し，観光客に対して利便性の高い周遊バスとして再構築することができた．

指導教員　高瀬　達夫　准教授